

# 平成28年度学校自己評価システムシート ( 県立深谷はばたき特別支援学校 )

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の障害特性や発達段階に応じたキャリア教育を推進する学校</li> <li>・共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進拠点の役割を果たす学校</li> <li>・教職員が専門性とチーム力を発揮して子どもが生き生きと学べる学校</li> </ul>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標	1 個別の支援プランに基づき、児童生徒一人一人が主体的に学べる指導・支援の充実 2 各学部のつながりのあるキャリア教育及び自立活動の充実 3 インクルーシブ教育システム構築に向けた支援体制とセンター的機能の充実
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価							
年度目標		28年度評価(2月1日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>○昨年度まで実施していた発達検査からさらに知的障害児童生徒に相応しい発達検査を実施し、合理的配慮を踏まえた支援プランの作成による指導支援の充実が課題である。</p> <p>○教員の学び合い(校内研修・外部専門家の活用・実践研究など)を通して、児童生徒が主体的に学習できる授業実践を目指し、教員の資質及び指導力の一層の向上を図る必要がある。</p>	<p>児童生徒の的確な実態把握と個に応じた指導の充実</p> <p>教員の指導力の向上及び授業改善</p>	<p>①全児童生徒に対し太田ステージや感覚統合観察を実施し、より障害特性等に応じた指導・支援の充実を図る。</p> <p>②保護者との合意形成のもとに個々の児童生徒の教育的ニーズ(合理的配慮を含む)を把握し、教育支援プランを作成して効果的な学習を進める。</p>	<p>①全教員が太田ステージを理解して実施でき、支援プランにもとづく指導を進めることができたか。</p> <p>②個々の児童生徒の教育的ニーズを明確にしたプランに基づいて指導・支援ができたか。</p>	<p>・太田ステージ等のアセスメントをふまえた支援プランを作成し、研修を活かして個に応じた指導・支援を実施した。</p> <p>①年度当初、全職員で太田ステージ評価を研修実施、特別非常勤講師や外部専門家を活用して個に応じた支援を進めた。</p> <p>②特別支援教育推進委員会を10回実施、本校の基礎的環境整備(8観点)の作成・確認、合理的配慮事例資料集の作成中。</p> <p>①②校内研修24回、外部専門家4名の講義等、授業見学週間3回、年次研、学部研究の研究授業18回、大学教授による授業観察、指導(2回)等を通じ、教員の専門性・指導力が向上し、授業改善が図れた。</p>	A	<p>・保護者アンケートの内容を理解しやすくするため、説明や例示を取り入れるなど工夫を図る。</p> <p>①根拠に基づくアセスメントを継続、実施、活用を図ることで、より個に応じた指導・支援の充実に繋げる。</p> <p>②今年度の成果を踏まえ、合理的配慮を含む個別的教育支援プラン作成をより保護者と連携し、継続した指導・支援をさらに充実していく。</p> <p>①②大学教授、外部専門家の授業観察・研修会、各種研修会を計画的、定期的実施し、より専門性を高めていく。</p>
2	<p>○昨年度まで実践研究の成果と課題を踏まえ、各学部が繋がりあるキャリア教育を継続して深めていく必要がある。</p> <p>○従来の自立活動を基礎にさらに知的障害の発達課題に相応しい指導を進める必要がある。</p>	<p>各学部におけるキャリア教育の一層の推進</p> <p>自立活動の授業の充実</p>	<p>①各学部及び自立活動部において、キャリア教育の実践研究を継続する。特に高等部では、教育課程の複数化の成果と課題を検証する。</p>	<p>①各学部等で適切なテーマを設定し、実践研究等を深めることができたか。</p>	<p>・各学部で「キャリア教育の視点を踏まえた授業及び教育課程の研究」を進め、時間における自立活動の指導を充実した。</p> <p>①昨年度の実績を踏まえ、各学部繋がりのある教育課程を検討・作成。高等部では教育課程の複数化の成果(特にグループ別指導)と課題を検証した。</p> <p>①自立活動の実践(各学年1事例)を作成、目標・展開・評価を明確にし、自立活動部と、より連携した指導を進めた。</p>	A	<p>①2年間の研究成果を踏まえ、さらに小・中・高等部がキャリア教育の視点、繋がりのある支援を踏まえ、研究を進める。</p> <p>①「自立活動の実践」資料を活用し、個のニーズに応じた自立活動の授業を全職員でより進める。</p>
3	<p>○昨年度までの地域支援業務の成果と課題を踏まえ、地域連携による一貫した教育支援をより充実していく必要がある。</p> <p>○地域に貢献する学校を目指して、県民への効果的な情報発信や地域の事業等への参加を積極的に進めていく必要がある。</p>	<p>多様な学びの場や地域支援の充実</p> <p>積極的な情報発信と地域貢献</p>	<p>①支援籍学習は実施上の合理化等を検討しながら拡充していく。</p> <p>②早期支援、小中高支援、就労支援、相談支援等を適時適切に実施する。</p> <p>③就学から卒業後までの継続した支援を推進するために全児童生徒にサポート手帳を整備する。</p>	<p>①②各関係機関等と十分に連携を図り実施できたか。</p> <p>③全児童生徒に整備され活用が図られたか。</p>	<p>・支援籍学習、センター的機能、地域貢献活動を一層進めた。</p> <p>①②各関係機関と連携し、支援籍学習(60名実施)、支援籍校との連絡会を本校で一括実施、地域支援は(202件)を行った。</p> <p>③授業参観、学校説明会等において、サポート手帳の意義と活用について理解を進め、全児童生徒に配布した。</p> <p>①ウェブサイト、各学部の教育内容や、学校の取り組みを示せるものに改めた。川本地区に隔月で学校情報を回覧した。</p> <p>②地域の販売活動を6回(新規事業として常設販売)、高校や公民館、老人ホーム等の清掃活動等を8回実施した。</p>	A	<p>①②個々のニーズを明確にし、各関係機関と連携しながら支援に取り組む。</p> <p>①ウェブサイトの運営組織を再構築し、効果的な情報発信を行う。</p> <p>②地域貢献活動を引き続き実施することで、本校の理解啓発を一層進める。</p>

学校関係者評価	
実施日	平成29年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・保護者アンケートはわが子への想いがストレートに反映する。ニーズを捉え学校全体で取り組むことが大切。</p> <p>・具体的取組(太田ステージ評価、大学教授を招聘しての研修会等)は評価できる。今後も継続してほしい。</p> <p>・先生方の支援プランの作成、指導等が子どもに現れているがうれしく思う。教員の専門性ということではセラピストによる個別支援と学校での集団指導では観点が異なる。本校は外部専門家の導入で両立できているようだ。</p> <p>・専門性を高めるための研修には感心した。一人一人の教員は素晴らしいスキルを持っているがお互いに遠慮しているのではないかと思うことがある。力を出し合えばもっとよくなると思う。</p>	
<p>・校長を中心によくレイアウトされた教育活動(キャリア教育)を行っている。</p> <p>・法定雇用率が変わることに伴い、現在の高等部の生徒に注目している。本校への関心も高く、多くの生徒の進路実現が図れるとよい。</p> <p>・担任と自立活動部の先生との連携ができ指導に生かされているのが良い。</p>	
<p>・サポート手帳は支援の在り方の繋がりも含め、有効性のあるものである。</p> <p>・学校間での交流会等ではいつも生徒の姿に感心している。公民館の清掃活動は感謝している。地域の方々もきれいな公民館が使え喜んでいる。今後も地域との連携を大切に継続してほしい。</p>	